

ケンタ通信

50号

自由民主
LIBERAL & DEMOCRATIC

発行所
自由民主党本部
郵便番号：100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話：東京03(3581)6211(代)
振替口座：東京00180-1-19518
定価1部 105円(税込み)

自由民主党
大阪府第十選挙区支部
〒569-0804
高槻市紺屋町11-1 FKビル2F
TEL 072-685-7188
FAX 072-685-7189
松浪ケンタ国会事務所
〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館414号室
TEL 03-3508-7266
FAX 03-3508-3536



《部内討議資料》

おかげさまで50号

道州制懇話会 超党派で結成へ

<http://www.kentakenta.org/>

道州制を国民運動へ

知事、学者、経済人らと 超党派懇話会を発足

◆超党派研究会を発展

松浪ケンタが中心となって公明党、みんなの党と設立した「超党派道州制研究会」が、平成23年にリニューアルする。

道州制支持の知事や首長、学者、経済人、さらには民主党の有志にも幅を広げ、シンクタンクの機能を備えた「懇話会」を本格的に組織する。

◆各地で続々と政治家連盟

民間で組織する道州制国民協議会と連携して、政治家連盟が続々と組織されている。12、1月にかけて、東海州、北関東州で新たに政治家連盟が設立される予定で、それぞれの設立



松浪君と道州制で
新世紀を拓く会



左から堺屋太一氏、坂口力氏(公明党 副代表)、江口克彦氏(みんなの党 最高顧問)

総会でケンタが記念講演を行う。

また12月7日には東京で、「松浪ケンタ君と道州制で新世紀を拓く会」が開催され、道州制研究会のメンバーら400人以上の関係者が集まった=写真。

松浪ケンタのプロフィール

衆議院議員(当選3回)

改革集団「新世紀」事務局長
党シヤドウキャビネット内閣府副大臣
衆議院厚生労働委員
衆議院青少年特委理事
党道州制推進本部事務局長
党NGO・NPO関係団体委員長

【これまでの主な役職】

内閣府大臣政務官(経済財政、規制改革、道州制、地方分権など担当)
厚生労働大臣政務官(厚生担当)
衆議院法務委員会理事
衆議院環境委員会理事
党国会対策副委員長

【経歴】

元産経新聞記者
昭和46年生、大阪府出身、清風高校を経て早稲田大学商学部卒、高槻市日吉台在住、家族は妻と長女

【特技・趣味】

プロボクサーライセンス取得、空手初段、ギター、オートバイ、魚・カメの飼育、英語(TOEIC Aレベル)



街宣バイク「ケンタ号」と

シャドウキャビネット内閣府副大臣に 「公明党」「みんなの党」と道州制研究会

2010年後半 活動ダイジェスト

7月 櫻井よしこ先生 講演会

松浪ケンタが日頃、ご指導頂いている櫻井よしこ先生の講演会をJAたかつきで開催。会場があふれるほどの盛況となった。聴衆は素直に愛国心を揺さぶられた。



9月 シャドウキャビネット副大臣に

自民党のシャドウキャビネット創設にともない内閣府副大臣(地方分権改革担当)に就任。道州制推進にはずみ。

10月 尖閣→国家主権を守る議連



「国家主権と国益を守るために行動する議員連盟」の事務局次長に就任。共同代表は自民党の岩屋毅、民主党の原口一博両衆議院議員で、尖閣の視察や石垣の市長、市議団などをヒアリングした=写真。海保の強化などの対策を提案している。

10月 超党派道州制研究会を設立 「公明党」「みんなの党」と連携

公明党、みんなの党の有志とともに超党派で道州制の研究会を発足。公明党の坂口力元厚生労働大臣、みんなの党の江口克彦最高顧問ら超党派のメンバーで国会会期末まで毎週の勉強会を行った。

この研究会は、産経新聞政治面のトップ記事になるなど、一定の注目を集めたが、来年はさらに、多くの議員や経済人、有識者、知事や市町村長とも連携し、国民運動とすることで、意見が一致。組織体制を本格的に充実させる。

ケンタは政界がどのように再編されようが、道州制に政治生命を懸ける覚悟だ。

11月 過労死について厚労委質問

過労死の割合が突出して高いトラック業界の労働状況について、下請けの多層化などの問題点を指摘。業界紙でも大きく取り上げられ、議員連盟を発足し、問題解決を目指す。



12月 全議員・支部長懇談会で主張 「総裁は退路断ち、国民に覚悟示せ」

閉会日の3日、自民党本部で、全議員と次期衆院選に出馬予定の選挙区支部長約300人が執行部と意見交換した。

会合はマスコミに全て公開されるオープンなもの。議員の中には「執行部批判は評判が悪い」などの意見もあったが、松浪ケンタは次のように述べた。

「参議院選挙に勝ったというが、795万票を獲得したみんなの党が民主票を奪ったからにすぎない。支持率が上がらないのは当然だ。政権を奪い返す覚悟が問われている。谷垣総裁には、総理大臣になった後は政界を引退することを宣言してもらいたい。背水の陣で臨んでもらわなければ、国民の信頼は得られないし、私達も命がけでついていけない」